



二

今年被虐國大志は、本職者として、近年稀少に觀るの嘆息し
と馬面を露出し、活氣ある奮闘氣を以て終始した。

即ち、日本労働傳子部考加問題に就ては、神戸聯合会より本部
役員に対する諮詢的反対意見と述べ、相違紛糾波瀾を捲き起し
た事、(一) 議事録、(二) 政治新聞に南するは、に就き主として、大

阪聯合会及び神戸聯合会、多数代表役員は、今回の対職会議の選
舉に当り、在國労働者大衆連派の様つた態度を、頭を嫌うて居る

ものありと、(一) 在職者部を礼弾し、(二) 此中にも脱退も敢て了